

# 文京学院大学 本郷キャンパス 新S館

BUNKYO GAKUIN UNIVERSITY HONGO CAMPUS S-KAN

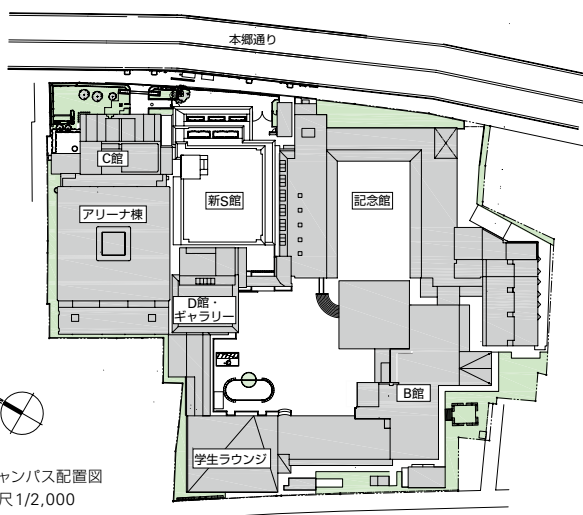
3つのつながりの中心となる交流の場の創出



村野藤吾氏のデザインを継承した3連アーチ



回遊型キャンパス



所在地 / 東京都文京区 竣工 / 2014年2月

設計施工 / 清水建設

敷地面積 / 11,482.45㎡ 建築面積 / 945.11㎡ 延床面積 / 9,669.39㎡

構造規模 / S造、CFT造、一部RC造 地下1階、地上11階、塔屋2階



既存キャンパスの外装材を継承したファサード



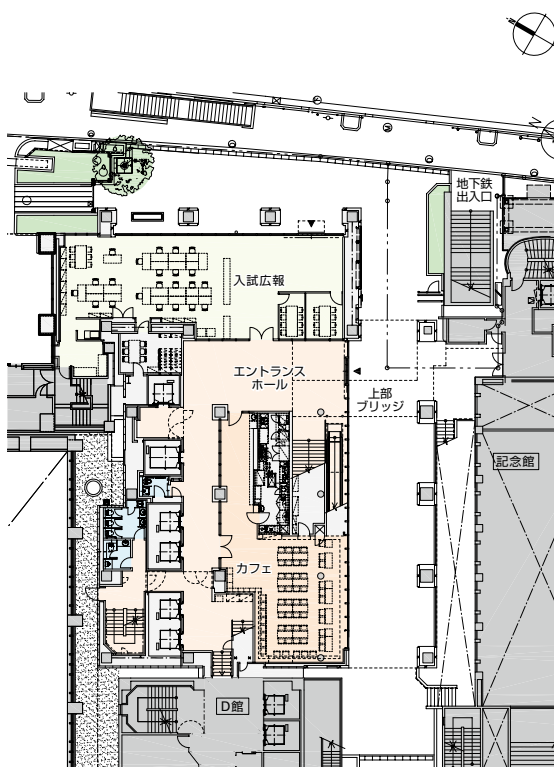
仁愛ホール中庭より南側全景を見る



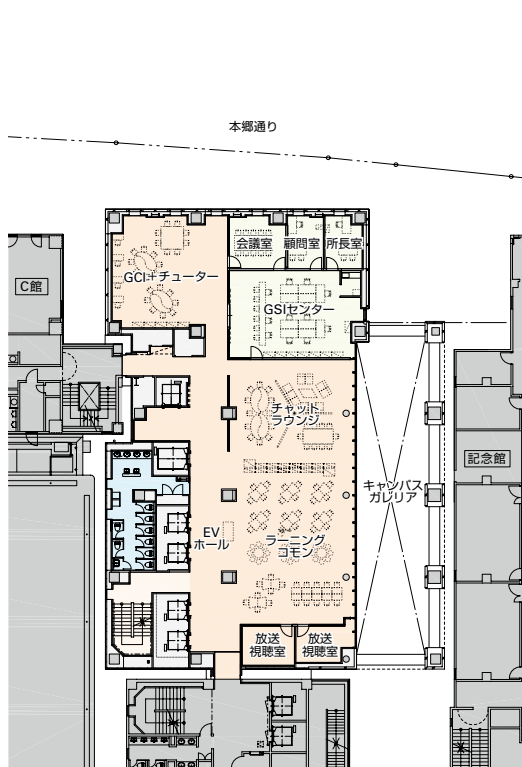
伝統を継承するメモリアルウォールを設置したエントランス



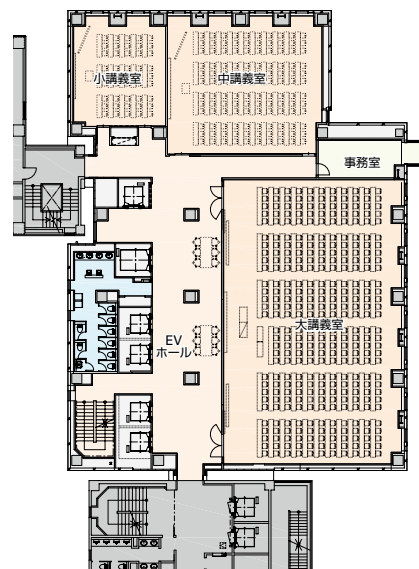
外光が差し込む4層吹き抜けの「キャンパスガレリア」



1階平面図 縮尺1/600



3階平面図



5階平面図



学びの交流の場 ラーニングcommons



学習意識を刺激するアクティブラーニングエリア

### ひと・キャンパス・未来をつなげる新S館

本計画は文京学園創立90周年を記念した、学園発祥の地である本郷キャンパスでの使いながらの新棟建替プロジェクトである。学園の建学の精神「自立と共生」の具現化をコンセプトとし、グローバル教育、能動的授業 (active learning)、課題解決型学習 (problem-based learning) など変化する今日の教育プログラムに合わせた対話型、グループ型の学修スタイルに対応する新しい教育環境とグローバルで学際的な知的交流の場づくりが求められた。

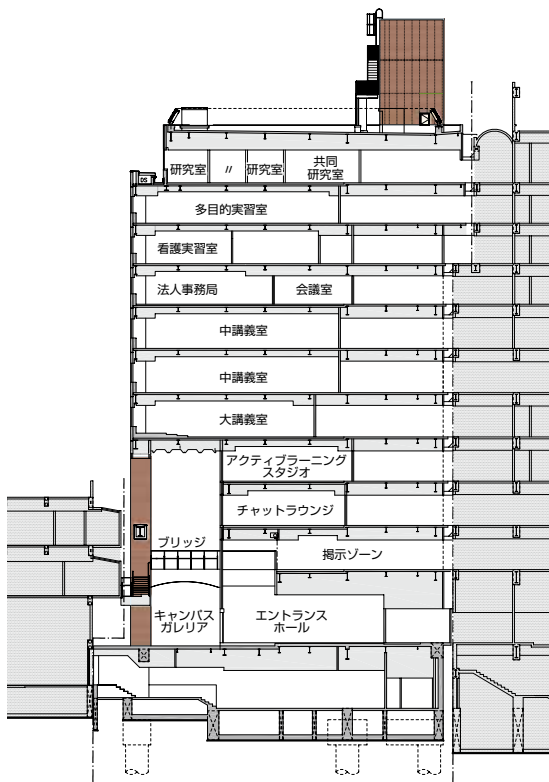
コミュニケーションキャンパス…ひとのつながり  
既存メインアプローチにキャンパスゲートと

なる外光が差し込む4層吹抜けのガレリアを設け、内部はカフェやグローバルcommons、ラーニングcommonsなど多様なコミュニケーションを誘発するスペースを配した。ガラス張りでオープンな空間にすることで学生たちの意識を刺激し自学自習を促し、ひとのつながりを感じる交流の場づくりを行った。また、既存棟の異なっていた各階の床レベルを調整しバリアフリー化を行いブリッジとあわせて回遊型キャンパスを実現している。

伝統の継承と未来への進化…キャンパスのつながり  
外観は、学園と親交の深かった建築家村野藤吾氏が監修した隣接する本部棟の開口部をデザインモチーフとし、同時に既存キャン

パスの外装素材を継承することでキャンパス全体の調和を図りつつ、本郷通りに面して学園の伝統と新しいアイデンティティを感じさせるファサードを創出した。

ユニバーサル&フレキシブル…未来とのつながり  
内部空間では、制振構造の採用により耐震性の向上とともに、柱の極少化と外壁ダクト空調方式により17mロングスパンの700㎡無柱空間を実現させた。既存校舎に合わせた低階高でありながらアクティブラーニングやラーニングcommons、各種実習室などのさまざまな新しい学修環境が積層する高密度で、将来の変化に対応するフレキシブルな新校舎を実現させた。  
(石原政幸)



南北断面図 縮尺1/600



コミュニケーションを誘発する B'Sカフェ